



令和3年 11月1日

No.82号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸 哉
〈児童数 196名〉

TEL 623-6019

“第72回山形県文集コンクール” 県教職員組合主催

最優秀受賞「文集いちょう 109」

～ 歴史と伝統のある教育文化活動事業“コンクール” ～



今日から暦は、霜月（11月）です。

朝晩の冷えが、徐々に厳しくなりました。周りの木々も色づき、鮮やかな赤や黄色が目飛び込んできます。校庭の満天星も秋真っ盛りです。また、シンボル「いちょう」の葉も、少しずつ色づき始めました。

今月12日（金）には、いちょう音楽会も予定されています。そのような中、嬉しいお知らせがあります。

毎年、鉛筆の芯に心を込めてこつこつ書き続けてきた「学校文集いちょう」が、第72回山形県文集コンクールで最優秀を受賞いたしました。

1949年から半世紀以上に及ぶ長い歴史のある文集コンクールです。審査会は山形市「大手門パルズ」を会場

に行われ、様々な文集41作品の中から本校の「学校文集いちょう109号（令和2年度作成）」が受賞となりました。何と嬉しいことでしょう。「文章を綴る」ことは、人らしく生きる力を育てることだと思います。また、人とともに生きていく喜びを育てることだとも思います。文章は自分のために書くことは言うまでもありませんが、その文章を読んだ人との心の交流を生み出すことも多くあります。そして、あたたかい心のふれあいが、「自分の心をひらいて何でも言える」「同じ人間として聴いてもらえる」という仲間に対する信頼感を生み、それに支えられて、書く喜びや意欲が高まっていくことも事実です。ここに、自分と同じ思いで生きている人たちがいる。この人との共有の思いが、まわりの人たちのかすかなつぶやきにも耳を傾け、自分の弱さも見直すやわらかさ、あたたかさを培う力にもなるのです。作文はまわりの人たちと、いや、花や鳥など自然とともに心やさしく生きていこうとする姿勢さえをも育てる「学び」だと言えます。

文章を書いてまとめる「学び」は時間もかかるし、地味な取り組みですが、鉛筆の芯に心をこめて、これからも、こつこつ書き続けてほしいと願います。今年の「学校文集いちょう110号」は、創立110周年を記念して「親子による学校文集」を企画しています。充実の1年になりますように。

